

平成 21 年 10 月 2 日

保護者の皆様へ

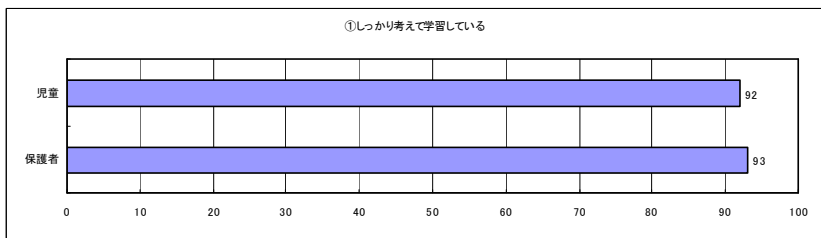
広島市立口田東小学校
校長 川 崎 由 紀

平成 21 年度 学校評価 第 1 回結果と考察

秋冷の候、保護者の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

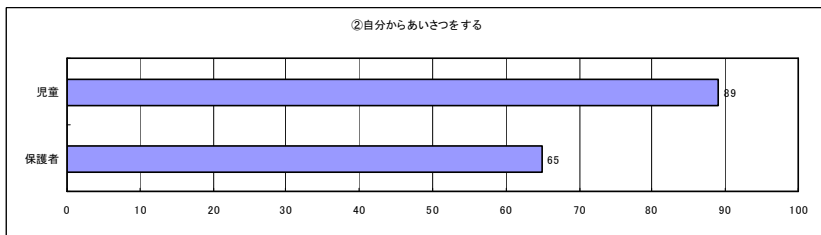
さて、口田東小学校では、「知」（基礎基本の確実な定着と充実）、「心」（規範性を身につけさせる）、「信頼」（生徒指導の充実）を本年度の重点課題として、地域から信頼され、期待に応える学校づくりに取り組んでまいりました。先日、保護者の皆様にご協力いただいたアンケートから、成果と課題を考察しました。この結果を今後の指導に生かしていきたいと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

①子どもたちは、しっかり考えて学習をしている。



児童・保護者共に、しっかり学習していると感じる割合は90%以上と高い評価である。本校では昨年度より、言語・数理運用科の研究協力校の指定を受け、今年度は「論理的に考える子どもの育成 ～思考力を育む授業作り～」を研究主題として、学校全体で取り組んでいる。教職員が同じ目標を持って研究を積み重ね、指導してきた成果だと考えられる。全国学力・学習状況調査の児童質問紙でも、思考する事への意欲や態度の項目で全国平均より10ポイント以上高い結果が出ていた。今後も継続して、思考力を育む授業作りに取り組んでいきたい。

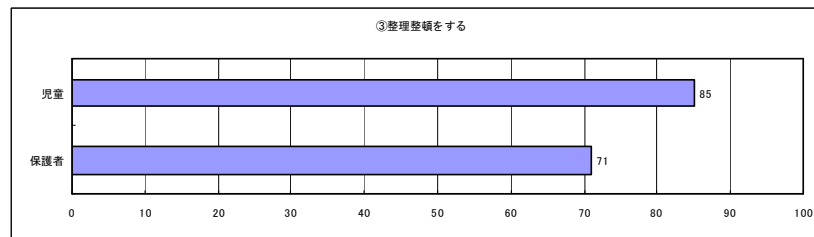
②子どもたちは、いろいろな人に対して、自分からあいさつをしている。



児童の評価と保護者の評価に大きく差がある。

自分からあいさつをしていると感じている児童の割合が高い。保護者や地域の方からも、「登下校の際、あいさつをする子どもが増えた」という声が聞こえてきている。しかし、学校生活の中で児童の実態を見てみると、元気で気持ちの良いあいさつができる児童もいるが、中にはあいさつをしても声が小さかったり、目を合わせなかったりする児童もいて、まだ十分だとは言いえない。地域でも同じ実態があるのであろう。今後も児童の実態をしっかり把握し、教職員が模範を示して指導を継続していきたい。

③子どもたちは、身の回りの整理整頓ができている。

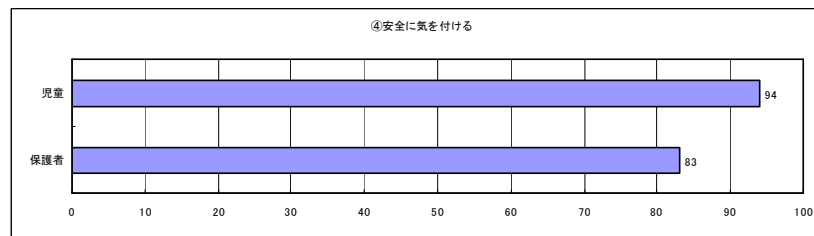


児童の評価と比べて保護者の評価は高いとは言えない。

子どもたちの自己評価が高いのは、学校生活のいろいろな場面で片づけがあり、日常的に行っていると考えたためであろう。しかし、その片づけ方には課題もあり、もとの場所に片づけていなかったり、整頓をしていなかったりする姿も見られる。

そこで学校では、日々の学級指導や個別指導、学校朝会を利用しての全体指導をし、整理整頓の必要性や大切さを伝えてきた。また、今年度より、靴箱や掃除ロッカー等に、正しい整頓や掃除の仕方がわかるように表示をし、具体的な片づけ方を示した。今後も指導を重ねていきたい。

④学校は、子どもたちの安全を守るための指導をしている。



児童・保護者共に高い評価である。

学校では、子どもたちの安全を守るために、毎月2回の登校指導を実施している。また、登下校の様子で気になることや学校でのけがや事故についてはその都度教職員で原因や事故防止の確認をし、共通認識で児童へ指導をしている。今後も引き続き、児童の安全を確保できるよう見守っていきたい。